

「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」への取組について

1. これまでの取組

平成18年度から、「早寝・早起き・あさ（あいさつ）・し（食事）・ど（読書）・う（運動）」を展開し、子どもたちの基本的な生活習慣の定着を目指し、啓発活動を行っている。また、3年ごとに生活習慣に関するアンケートを実施し、成果と課題について分析し、指導に活かし、心身ともに健やかな子どもを育てることを目的として運動を展開してきた。

その中で、アンケートや子どもの実態をもとに強化すべき項目を取り上げ、リーフレットを作成し、啓発してきた。

<啓発の取組>

*リーフレットの発行

「健やかな体をつくる睡眠6カ条」

「家庭学習チェックシート」

「我が家の携帯・スマートフォン 約束事10カ条（推奨版）」

「早寝・早起き・あさ（あいさつ）・し（食事）・ど（読書）・う（運動）、まる10年。
にこまるくんも10歳」

「読書のすすめ」

*横断幕の貸し出し

2. 平成30年度生活習慣に関するアンケート調査の集計結果より

(1) 早寝

▲就学前・小学校では21時までに寝ている割合が減少し、寝る時間が遅くなる傾向がある。

○中学校では、23時より早く寝ている割合が増加している。

(2) 早起き

○小学校は集団登校のため、早起きの傾向がある。

▲中学校では、7:30までに起きている子どもの割合は85%程度だが、前回と比べ減っている。部活動の朝練習がなくなった影響が考えられる。

(3) あいさつ

○就学前・小・中学校ともに、あいさつをしている子どもがほとんどである。

「友だちにすすんであいさつをする」子どもが小・中学校ともに少しずつ増えており、あいさつを通じた人間関係づくり等、あいさつに関する指導がなされている成果が見られる。

(4) 食事（朝食）

○就学前・小学校における朝食の内容については、主食のみや菓子・菓子パン等を朝食として食べる子どもが減少し、主食・主菜や主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスの良い朝食を食べている子どもが増加している。子どもたちへの食に関する指導や家庭との連携など「食育」の成果であると考えられる。

(5) 読書

▲読書に関しては課題が見られる。1日の中で「本を読まない」と答えた子どもが就学前で18.7%、小学校で34.1%、中学校では40.8%にのぼる。いずれも前回の調査より増加している。子どもたちが読みたいと思う本が身近にある環境づくりや、家庭との連携を通して、読書習慣の確立を目指したいと考える。

(6) 運動

▲放課後「体を動かさない」と答えた子どもの割合は2割程度であり、増加している。

3. 学校教育課での重点的な取組

学校教育課では、これまでのアンケート結果から『子どもの読書活動推進や図書環境の整備』を重点として取り組んでいる。

読書は、子どもたちに読解力や想像力、思考力、表現力などがつけられるとともに、多くの知識を身につけたり、いろいろな文化を理解したりすることができるようになると考えている。

*平成30年度読書啓発資料「小学校用 読書のすすめ」「中学校用 読書のすすめ」を発行

・保護者向けリーフレットを作成し、小学校と中学校に配布した。各学校では、配布するだけでなく、このリーフレットを使って児童・生徒に指導していただいた。

*学校司書の配置

・平成31年度、学校司書3人を配置し、推進校（小学校5校、中学校1校）に週2日、支援校（小学校7校、中学校3校）に月1日程度勤務している。

・第2次近江八幡市子ども読書活動推進計画（平成31年4月策定）での配置目標

現状	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
19%	20%	30%	40%	50%
3人	3.2人	4.8人	6.4人	8人

・学校司書を8人にすることにより、小・中学校だけでなく、就学前（幼・保・こども園）でも学校司書を活用し、早い段階から本に親しむ子どもの育成に努めたいと考えている。